

### ■第1回農業水利施設ストックマネジメント研修会開催

平成26年8月29日に第1回農業水利施設ストックマネジメント研修会を鶴田川沿岸土地改良区を会場に開催しました。今回は、「ポンプ稼働時のチェックポイント、測定工具の使用方法」を研修テーマとして、不来内（こずない）排水機場で現地研修を行い、その後各班に分かれ実際に機能保全計画を作成するためのグループ討議を行いました。

昨年度に引き続き機能保全計画の作成に関する内容となりましたが、今回はポンプ稼働時に調査しなければならない項目をポイントとして研修を行いました。

農業水利施設は、設置環境、維持管理状況等によって、様々な診断結果となるため、診断内容を理解しなければ、適切な対策工事に移ることができません。研修参加者は様々な意見を出し合い、お互いに刺激を受ける内容となりました。

なお、今回も現場を熟知した土地改良区のベテラン職員が班長となり、グループ討議をまとめていただきました。

今後は、11月と2月に当研修の最終目標である施設管理者が自ら機能診断、機能保全計画を策定できるよう、研修会を開催する予定としております。



研修状況



振動の測定



塗装厚の測定



各班ごと検討内容の発表

### ■平成26年度農業水利施設ストックマネジメント事業推進キャラバン隊活動計画

昨年度、農業水利施設ストックマネジメント事業推進キャラバン隊を結成し、各管理者ごとの今後の要望施設、要望額について、聞き取りを行いました。

今年度は、昨年度提出していただいたストックマネジメント管理計画について、市町村・土地改良区と詳細な調整を行い、施設劣化度による優先順位付けや予算の平準化を考慮した施工年度の設定等、計画の精度を上げて参りたいと考えております。

10月中旬以降管理者との打合せを行い、その意向も踏まえ、平成27年3月までにストックマネジメント管理計画を見直しし、事業管理計画との整合を図って参りたいと考えております。

なお、昨年度提出していただいたストックマネジメント管理計画により、宮城県内の今後の賦存量等を把握することができ、今後の予算措置に関する参考資料として活用させていただきます。

## ■登米市豊里町土地改良区からの情報提供 ～維持管理のすゝめ～

登米市豊里町土地改良区では、毎年用水が終了すると職員自らが土地改良区管内にある250 mm～350 mmの渦巻ポンプ20台を維持管理の一環として、上部ケーシングを開放し内部の確認やライナーリング、スリーブ、センターリング等の測定及びグランドパッキンの交換、小配管の清掃等を独自に行っています。

また、水中ポンプ6台についても引き上げて点検を行っており、必要であればオイル交換や補修塗装を行い養生して保管しています。



上部ケーシングを開放して、ライナーリングやスリーブの摩耗状況を測定することで、個々の施設に合わせた最適で計画的な維持管理を行うことが可能になります。

水中ポンプも、定期的に本体の確認を行うきめ細やかな維持管理を行うことで、ポンプ本体の寿命を延ばせるだけでなく、突発的な事故の割合を減らせます。

このような取組を行うことで、ポンプのトラブルを最小限に減らすことができ、適切な時期に整備補修工事を実施することが可能となります。しかしながら、職員の労力は大変なものとなります。職員のお話では、突発事故によって断水したり、多額の整備補修費用が掛かることのないよう、出来る限り自分たちで補修点検をしているとのことでした。

## ■ストマネー口メモ

今回のストマネ通信では登米市豊里町土地改良区の維持管理の事例を紹介しましたが、実際には「忙しくて手が回らない」「技術者がいない」「数が多すぎて対応しきれない」等の理由で「うちでは現実的ではないなあ」と感じた土地改良区の方も多いと思います。

近年では、ほ場整備事業等により職員数が少ない土地改良区にもポンプ場が増える傾向にあります。このような土地改良区の中には、業者と契約を結び「管内のポンプ場を一括でメンテナンスする」といった維持管理方法をとっているところがあります。

契約の内容は「試運転を行い不具合がある場合には復旧を行う」、「水中ポンプのオイルの状況を確認して交換する」など様々ですが、職員の手が回らない施設や特定のカテゴリに対する維持管理方法の一つであることは間違いありません。

○問い合わせ先 宮城県農林水産部農村整備課 水利施設保全班 TEL 022-211-2876  
HP <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonseisutok1-1.html>  
宮城県土地改良事業団体連合会 技術部 農村整備五班 TEL 022-263-5816